

長崎大学核兵器廃絶研究センター設立のお祝いの言葉

2012年4月1日に発足した「長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）」設立記念シンポジウムにご招待頂き有難うございました。

「核兵器廃絶」と銘打った日本で初めての研究センターの誕生だということも大変素晴らしいことです。おめでとうございます。

第2の原爆被爆地長崎は、「長崎を核攻撃を受けた人類最後の都市」であってほしいと訴えつづけてきました。原爆被爆者もふたたび被爆者をつくるなど叫びつづけてきました。広島とともに核兵器廃絶運動の原点でもある長崎に、「核兵器廃絶」を研究対象とする研究施設と研究組織が発足したことを大変嬉しく思います。

初代センター長の梅林宏道博士は長崎の核兵器廃絶運動にとって、第1回の核兵器廃絶地球市民集会・ナガサキのコーディネータの大役を果たされ、引きつづき第4回までの市民集会の成功に貢献された逸材です。全く的確な方を選任された長崎大学、および長崎県民、長崎市民の慧眼に敬服いたします。

日本原水爆被害者団体協議会は全国各県の被爆者組織を糾合し、1956年の結成以来、一貫して核兵器のすみやかな廃絶と原爆被害に対する国の償いを求めて運動を重ねてきました。被爆者は、67年前に広島、長崎で身をもって体験した原爆の残忍性、非人道性を決して認めることは出来ません。核兵器は人類と共存できない、また、共存させてならない悪魔の凶器です。

いまだ地球上には2万発以上の核弾頭が存在します。核保有国とその同盟国は核抑止力で自国の安全を図ろうとしています。しかし、核抑止力は非人道的な殺戮を容認し、それを前提とする政策です。全く人道にも取る政策です。直ちに、放棄させなければなりません。

貴研究センターが的確で、有効な、核兵器廃絶の道筋を探り出し、世界に発信して、廃絶を求めて運動する人々の羅針盤の役を果たしてくださることを心より願って、設立のお祝いの言葉とします。

2012年4月18日

日本原水爆被害者団体協議会